Scope3排出量削減のための企業間連携による省CO2設備投資促進事業

【令和8年度予算額　1,500百万円（2,000百万円）】
※3年間で総額5,000百万円の国庫債務負担

環境省

バリューチェーンを構成する代表企業と取引先の中小企業等が連携して行う省CO2設備の導入を支援します。

1. 事業目的

地球温暖化対策計画で示された2030年度、2035・2040年度の各目標や2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するため、バリューチェーンを構成する代表企業が、取引先である複数の中小企業等と連携してScope3の削減に資する省CO2設備を導入する取組を支援することで、バリューチェーン全体のCO2排出削減を強力に推進するとともに、産業競争力の強化やGX市場の創造を図る。

2. 事業内容

脱炭素経営の国際潮流を踏まえ、大企業では取引先のCO2排出量（Scope3）の削減の重要度が増している。そこで、代表企業と取引先である連携企業（中小企業等）が行う省CO2設備の導入を支援する。

主な要件　：
- 代表企業が「GX率先実行宣言」を行っていること
- 代表企業のScope3削減目標を踏まえて、代表企業と連携企業が、本事業実施後の連携企業のCO2排出量について合意※1を行っていること

※1 代表企業が大企業の場合は連携企業2者以上、中堅・中小企業の場合は連携企業1者以上と合意を行うこと

補助対象　：現在の設備に対して30%以上※2の省CO2効果が見込める設備の導入

※2 本事業で導入する設備全体で30%以上の省CO2効果を満たすこと
ただし、大企業は30%以上、中堅企業は20%以上、中小企業は10%以上の省CO2効果を満たすこと

補助率　　：中小企業1/2
大企業1/3（「GX率先実行宣言」を行い、かつ、対策によりCO2排出量を3,000t-CO2/年以上削減する場合の補助率は1/2）

補助上限額・事業期間　：15億円（1事業者につき）、最大3カ年

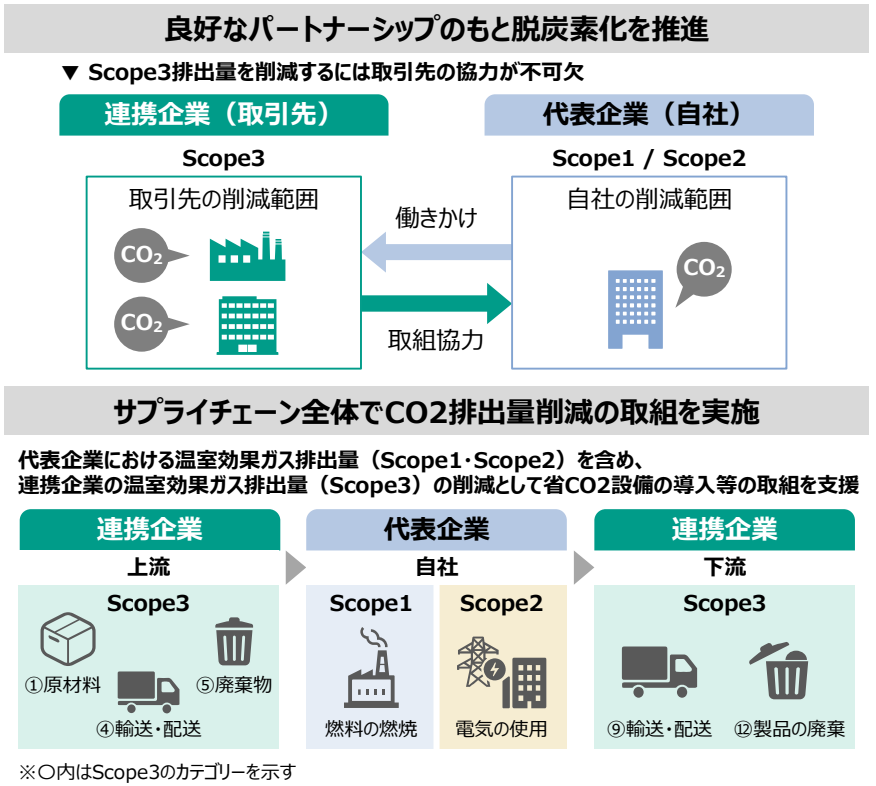
3. 事業スキーム

■事業形態：間接補助事業（補助率：1/2、1/3）

■補助対象　：民間事業者・団体

■実施期間：令和7年度～

4. 事業イメージ



お問合せ先：　環境省地球環境局 地球温暖化対策課 地球温暖化対策事業室　電話：0570-028-341

お問い合わせ先

- 地域循環共生社会連携協会
  電話：03-3502-0705　e-mail: 08scope3@rcespa.jp
  担当者：安江　前田（賢）

- 環境省地球環境局 地球温暖化対策課 地球温暖化対策事業室
  電話：0570-028-341
  担当者：竹中　豊原

過年度SHIFT事業企業間連携先進モデル支援活用事例
※令和8年度実施のScope3事業とは一部要件が異なりますのでご留意ください。

包装材納入のサプライヤー2社と連携し、設備更新でCO_2排出量を削減する

サントリーグループの包材調達によるCO_2排出量は、国内バリューチェーン全体排出量の3分の1を占めている。企業間連携先進モデル支援の活用により、取引先様2社のCO_2排出削減を支援し、バリューチェーン全体のCO_2排出量削減を進める。株式会社CSIジャパン様はPETボトルキャップ製造設備のコンプレッサーとチラー更新で187ｔ-CO_2／年削減。東洋製罐株式会社様は、飲料缶製造ライン等で使用する受電用変圧器更新で14ｔ-CO_2／年削減する。

2023年11月	2023年4月	2023年6月	2025年12月
検討開始	補助事業活用決定	応募申請	事業完了

株式会社CSIジャパン

東洋製罐株式会社

代表企業

事業者	サントリーホールディングス株式会社	業　種	飲料・たばこ・飼料製造業
		所在地	東京都港区

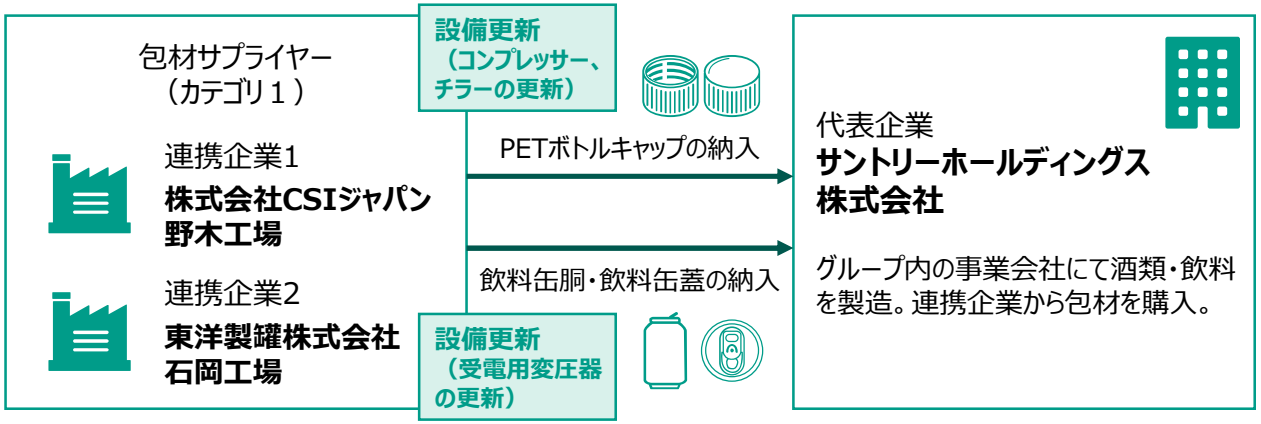
連携企業1

事業者	株式会社CSIジャパン 野木工場	業　種	プラスチック製品製造業
		所在地	栃木県下都賀郡

連携企業2

事業者	東洋製罐株式会社	業　種	金属製品製造業
		所在地	茨城県石岡市

事業内容



連携のための工夫と期待

取引先様のCO_2削減を後押しするためにCO_2排出量の大部分を占める包材取引先様向けに本制度の説明会を実施した。制度2年目以降、より多くの取引先様が本制度を活用されることでバリューチェーン全体でCO_2削減活動が更に進展することを期待する。

代表事業者の中長期目標

2030年目標

自社拠点で50%、バリューチェーン全体で30%の温室効果ガス排出削減を目標に掲げ、全世界の自社拠点、ならびに自社拠点以外も含めたバリューチェーン全体で温室効果ガス削減に取り組み、グループ全体でサステナビリティ経営を推進する。

2050年目標

サントリーグループではバリューチェーン全体で温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す目標を掲げ、省エネ活動の推進、再エネの積極的な導入、次世代インフラの利活用およびステークホルダーとの協働を通じ脱炭素社会の実現に向けて取り組む。

過年度SHIFT事業企業間連携先進モデル支援活用事例
※令和8年度実施のScope3事業とは一部要件が異なりますのでご留意ください。

CO_2削減対策

年間CO_2削減量の単位　：t -CO_2／年
ランニングコスト削減額の単位　：千円／年

No.	対策種類		対策名称		CO_2削減量	ランニングコスト削減額
1	Scope3 カテゴリー1	設備更新	株式会社CSIジャパン	コンプレッサー、チラーの更新	187	–
2	Scope3 カテゴリー1	設備更新	東洋製罐株式会社	受電用変圧器の更新	14	–

- **補助金額**　2社計　5,733万円
- **コスト効果**
  - ランニングコスト削減額　–
  - 投資回収年数（補助あり）　–
  - 投資回収年数（補助なし）　–
- **コスト以外の効果**
  - 工場の生産能力向上
  - 取引先様とのCO_2削減に関するコミュニケーション増

CO_2削減計画

現状 → 2025年（目標年度）

● 連携企業1

643 (t-CO_2／年) → 28.9% 削減 → 456 (t-CO_2／年)

● 連携企業2

42 (t-CO_2／年) → 33.3% 削減 → 28 (t-CO_2／年)

関係者の声

サントリーホールディングス
株式会社
サプライチェーン本部
包材部部長 兼 戦略部部長
加堂　立樹　氏

バリューチェーン全体でCO_2排出量の削減をしていくという弊社の考え方に賛同していただき、協力してもらえたことは有難かった。
引き続き、サプライチェーンの皆さんと一緒に脱炭素社会の実現に向け取り組んでいきたいと考えています。

連携企業1

設備更新を進めなければならない現状の中、発注先から有難い提案を頂けた。
また、今回の補助金を活用した設備改修で発注先のscope3と当社のscope2の両方のCO_2削減になり、温室効果ガス削減目標達成に向けた取り組みを後押ししてもらえる有効な補助金だと思う。

連携企業2

設備更新に向け申請可能な補助金がないか調べていたところ発注先から新たな補助金について声を掛けて頂けた。
申請書類の準備に大きな負担も無く納期内に完了することができたので、次年度以降も補助金申請される場合は声を掛けていただければ検討したい。

その他の関係者

補助金申請の取り纏めをお手伝いさせていただきました。
複数社の申請書類をまとめるのに想定していたほどの作業量は無く申請することができました。

関西電力株式会社

過年度SHIFT事業企業間連携先進モデル支援活用事例
※令和8年度実施のScope3事業とは一部要件が異なりますのでご留意ください。

代表企業が、連携企業とグループ企業の設備使用状況を調査する等主導し、サプライチェーン全体でCO_2排出を削減

福井鋲螺株式会社

和幸理研株式会社

石川メッキ工業株式会社

株式会社ワイヤーテクノ

代表企業が主導し、連携企業2社、グループ会社1社、自社内5工場の事業所内で使用されている設備に対して調査を行い、空調やコンプレッサー等の使用頻度が高いユーティリティ設備の高効率化、太陽光発電設備の導入により、サプライチェーン全体でのCO_2排出削減を実施する。

代表企業	福井鋲螺株式会社
業種	金属製品製造業
所在地	福井県あわら市

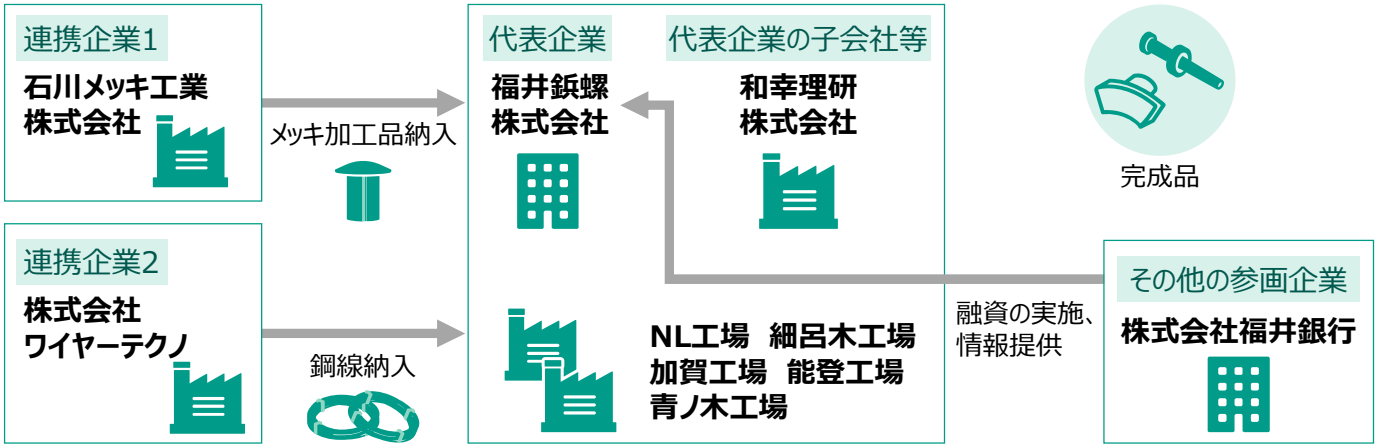
連携企業1	石川メッキ株式会社
業種	金属製品製造業
所在地	石川県金沢市

グループ会社	和幸理研株式会社
業種	金属製品製造業
所在地	石川県金沢市

連携企業2	株式会社ワイヤーテクノ
業種	金属製品製造業
所在地	大阪府大阪市

2024年4月 検討開始 → **2024年5月** 補助事業活用決定 → **2024年8月** 応募申請 → **2025年12月** 事業完了

事業内容



連携のための工夫と期待

弊社仕入先様は中小企業が多く、カーボンニュートラルの取り組みが遅れている会社も多いため、福井鋲螺は各仕入先様に出向いて脱炭素教育を実施しました。そして、省エネ診断や省エネ改善を仕入先様と協働で取り組みました。このように仕入先様との対話を重視し、現場にて協働する　”寄り添い活動”　を通して信頼関係が深まり、補助金申請への大きなきっかけとなりました。

代表企業の中長期目標

2030年目標

当社ではCO_2排出について「2030年までにカーボンニュートラルを目指す」を掲げ、CO_2排出量や産業廃棄物の削減に努めています。
Scope3においても当社が主導となり、CO_2排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

2050年目標

太陽光発電等の再生エネルギーの導入を益々強化し、省エネ改善活動を推進することで、福井鋲螺グループ内の再エネ／省エネ比率を向上させます。
また、バリューチェーン全体の脱炭素活動の展開を図り、 Scope3のCO_2排出量の削減に貢献します。

過年度SHIFT事業企業間連携先進モデル支援活用事例
※令和8年度実施のScope3事業とは一部要件が異なりますのでご留意ください。

CO_2削減対策

年間CO_2削減量の単位　：t-CO_2／年
ランニングコスト削減額の単位　：千円／年

No.	対策種類		対策名称		CO_2削減量	ランニングコスト削減額
1	Scope2	設備更新	福井鋲螺株式会社	空調設備、コンプレッサーの更新、太陽光発電設備の導入	170	8,936
2	Scope1,2	設備更新	和幸理研株式会社	空調設備、コンプレッサー、ボイラーの更新、太陽光発電設備の導入	70	3,416
3	Scope3 カテゴリー1	設備更新	石川メッキ工業株式会社	コンプレッサー、LEDの更新	8	351
4	Scope3 カテゴリー1	設備更新	株式会社ワイヤーテクノ	空調設備の更新	1	52

● **補助金額**　4社計　約9,746万円

● **コスト以外の効果**

福井鋲螺及び仕入先様の省エネ意識及びCO_2排出削減に関する技術レベルが向上しました。

CO_2削減計画

現状 → 2025年（目標年度）

● **代表企業（5工場計）**

509（t-CO_2／年）→ 33.4%削減 → 339（t-CO_2／年）

● **グループ会社**

131（t-CO_2／年）→ 53.4%削減 → 61（t-CO_2／年）

● **連携企業（2社計）**

53（t-CO_2／年）→ 17.0%削減 → 44（t-CO_2／年）

関係者の声

福井鋲螺株式会社
品質保証部 課長
坂口　徹　氏

今後の脱炭素推進において、サプライチェーンの企業が協働して排出削減に取り組むことがますます重要となります。SHIFT事業企業間連携を通した設備導入活動推進により、CO_2排出削減施策をより広く考え、推進する契機になり、福井鋲螺バリューチェーンで取り組む重要性を認識しました。

グループ会社

今回SHIFT事業の参加をきっかけに、毎日使用する空調やコンプレッサー等の設備更新を一度に大きく進めることが出来ました。また当社の作業環境改善だけではなく、大きな自然環境改善にも繋がっていることを再認識し、今後も積極的に推進する為の良い契機となりました。

連携企業1

本事業のように、バリューチェーンで連携した活動こそが、国内製造業全体が活発にCO_2排出削減に取り組むきっかけになるものと感じました。我々50名前後の中小企業が乗り出しにくい案件を、後押し頂けて、感謝しております。今後もこの事業が50名前後の中小企業に広がることを望みます。

連携企業2

毎年、国・県へのエネルギー使用報告にあたり、カーボンニュートラル取組に拍車がかかっている中、弊社ではCO_2削減に関して頭打ちになっていました。今回福井鋲螺より、SHIFT事業の参加、また現場改善の客観的な指導を頂き、微力ながらCO_2削減に寄与することが出来ました。